日本全国 能楽きゃらばん

聞こえる人も、聞こえない人も

日本全国
能楽キャラバン!

手話で楽しむ 能狂言鑑賞会 in ふくやま

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

大規模かつ質の高い
文化芸術活動を核とした
アートキャラバン事業

2021.11.6(土)

第1回目公演	第2回目公演
12:00開演	15:30開演

チケット 全席指定 3,500円(税込)

会場 喜多流大島能楽堂

新型コロナウィルス対策のため
下記の事項にご理解、
ご協力をお願い致します

○収容人数を減らして間隔を確保します
○体調不良の方は入場をご遠慮ください
○入場時に手指の洗浄をお願いします
○館内ではマスクの着用をお願いします

【主催】㈲樫木端　公益社団法人能楽協会　中国新聞備後本社　【協力】社会福祉法人トット基金

お問合せ・お申込み　喜多流大島能楽堂
〒720-0814 福山市光南町2-2-2　TEL&FAX.084-923-2633
osimano@orange.ocn.ne.jp　www.noh-oshima.com

出演者紹介

手話能

大島 輝久 能楽師 シテ方喜多流職分
佐々木 多門 能楽師 シテ方喜多流
塩津 圭介 能楽師 シテ方喜多流
大島 衣恵 能楽師 シテ方喜多流
村瀬 提 能楽師 ワキ方福王流

竹市 学 能楽師 笛方藤田流職分
成田 奏 能楽師 小鼓方幸流
白坂 信行 能楽師 大鼓方高安流
梶谷 英樹 能楽師 太鼓方金春流
大島 政允 能楽師 シテ方喜多流職分
出雲 康雅 能楽師 シテ方喜多流職分
長島 茂 能楽師 シテ方喜多流職分

狩野 了一 能楽師 シテ方喜多流職分
内田 成信 能楽師 シテ方喜多流職分
粟谷 浩之 能楽師 シテ方喜多流職分
粟谷 充雄 能楽師 シテ方喜多流職分
佐藤 陽 能楽師 シテ方喜多流
高林 呻二 能楽師 シテ方喜多流職分
金子 敬一郎 能楽師 シテ方喜多流職分

手話狂言 声の出演者

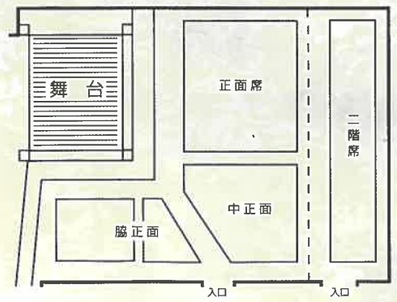
三宅 右近 能楽師 狂言方和泉流
三宅 右矩 能楽師 狂言方和泉流
三宅 近成 能楽師 狂言方和泉流

手話狂言 立衆役出演者

江副 悟史 日本ろう者劇団 代表
井崎 哲也 日本ろう者劇団 劇団員
砂田 アトム 日本ろう者劇団 劇団員
鈴 まみ 日本ろう者劇団 劇団員
長谷川 翔平 日本ろう者劇団 劇団員

喜多流大島能楽堂
〒720-0814 福山市光南町2-2-2
TEL&FAX.084-923-2633
osimano@orange.ocn.ne.jp
www.noh-oshima.com

福山駅より徒歩15分
バス停『商工中金前』



日本全国 能楽キャラバン！

手話で楽しむ 能狂言鑑賞会 in ふくやま

手話狂言・手話能とは

聞こえる人も聞こえない人も一緒になって能狂言を楽しんでほしい！画期的な試みとして話題になった「手話で楽しむ能狂言鑑賞会」を福山の地で初めて開催します。

■手話狂言

日本ろう者劇団は和泉流狂言師三宅右近師の指導により、昔から継承された狂言特有の動き、運び足をそのままに手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめています。台詞を手話で表情豊かに表現し、声のセリフをあわせることにより、聞こえる人も聞こえない人も共に楽しむことができます。

■手話能

三宅右近師と日本ろう者劇団の協力を得て、能楽会では他に例のない能楽師自身(シテ方・ワキ方・狂言方)が能舞台上で謡いながら手話をする能「土蜘蛛」の上演に取り組みます。

日本を代表する伝統演劇「能狂言」の上演が手話という「見る言葉」の力を借りてどのような新しい姿を見せるのか、是非ご高覧下さい。

日本ろう者劇団とは

昭和55年(1980年)4月、演劇の好きな仲間が集まり「東京ろう演劇サークル」として発足。障害の有無にかかわらず誰もが楽しめ、視覚的なことに重点をおく演劇作りを目指して活動を開始。その後、黒柳徹子現理事長との出会いでトット基金の付帯劇団となり、「日本ろう者劇団」と改称。手話狂言、創作劇、ムーブメントシアター、サインマイム等劇団独自のレパートリーを持って全国各地を公演。聞こえる人も聞こえない人も共に楽しめる演劇を通して、より多くの人に手話の魅力と演劇の素晴らしさを伝え広める活動を続けている。

1980年 『東京ろう演劇サークル』として設立される。

1981年 『日本ろう者劇団』と改称される。

1982年 『社会福祉法人トット基金』の付帯劇団となる。

1987年 昭和62年度文化庁芸術祭演劇部門で、手話狂言が芸術祭賞を受賞する。

ごあいさつ

社会福祉法人トット基金
理事長 黒柳 徹子

日本ろう者劇団のレパートリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかもが手探りの「世界ろう者演劇祭典」(1983年)に参加したイタリアのバレルモが、はるか昔のことのように思えます。あれから、演目も少しづつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。

お能を手話で楽しむ会を、喜多能楽堂の皆様がお考え下さいました。能楽師の方が手話で演じられるのです！本当に楽しみです。沢山の皆様が劇場に足を運んで下さいますように。そして、よろしくお願いします。

番組

解説 大島輝久、三宅近成(手話通訳・田家 佳子)

手話狂言 六地蔵

シテ(すっぱ) 江副 悟史
アド(田舎者) 砂田アトム
小アド(すっぱ仲間1) 鈴 まみ
小アド(すっぱ仲間2) 長谷川翔平
小アド(すっぱ仲間3) 井崎 哲也

声の出演 三宅 右近 三宅 右矩 三宅 近成

演出・指導 三宅 右近
手話監修 五十嵐由美子
稽古手話通訳 田家 佳子
清田 真見
小松 智美
記録 平塚かず美

手話能 土蜘蛛

シテ(僧・土蜘蛛) 大島 輝久
ワキ(独武者) 村瀬 堤
ワキツレ(従者) 喜多 雅人
間(下人) 三宅 近成
シテツレ(胡蝶) 大島 衣恵
シテツレ(太刀持) 塩津 圭介
シテツレ(源頼光) 佐々木多門

大鼓 白坂 信行 太鼓 梶谷 英樹
小鼓 成田 奏 笛 竹市 学

後見 高林 呻二 金子敬一郎
地謡 佐藤 陽 狩野了一 粟谷 充雄 出雲 康雅 内田 成信 大島 政允 粟谷 浩之 長島 茂
手話指導 江副 悟史

手話狂言「六地蔵」

新たに建立した御堂(みどう)に安置する六体の地蔵を購入するために、田舎者が都にのぼりました。そこで、親切に声をかけてきたすっぱ(詐欺師)を仏師と信じ込み、翌日には因幡堂で受け取る約束をします。まんまと仏師になりすましたすっぱは仲間3人を呼び出し、3人で3体ずつ二度に分けて地蔵の姿に取り繕い田舎者をだます算段をします。当日、因幡堂の本堂と鐘楼堂の二か所を忙しく行き交いながら、田舎者に地蔵を見せるうちにだんだん立ち姿が崩れ、ついに化けの皮がはがれ追い込まれてしまいます。

地蔵のおひろめ場所を本舞台と橋懸(がかり)に設定し、だまそうとするすっぱと確かめようとする田舎者がその間を走り回り、能舞台の特性を縦横に発揮します。類曲に『仏師』があります。

手話能「土蜘蛛」

源頼光は、近ごろ体調が優れず、病の床に伏しています。侍女の胡蝶は、典薬寮から薬を持ち帰り、心身共に弱った主君を励ます。

夜更け、怪しげな僧が部屋を訪れます。頼光が名を問うと、僧は「我がせこが来べき宵なりささがにの蜘蛛の振舞ひかねてしるしも」と古歌を引き、巨大な蜘蛛に姿を変えると、無数の糸を投げて襲いかかります。頼光はすかさず枕元に置いた名刀膝丸を抜き、斬りつけて「しとめた」と叫ぶと、化け物は消え失せます。

その声を聞き、家来の独武者が駆けつけます。頼光は経緯を語り、刀の名を蜘蛛切と改めます。

独武者は、郎党を引き連れて退治に向かいます。血の跡をたどって古塚に至り、塚を壊すと、敵は火炎や水を吹いて抵抗しますが、巣を暴かれて姿を現します。その正体は葛城山で年を経た土蜘蛛の精で、御代に害を為そうと企んだのでした。

武者たちは「王地に住みながら帝を悩ますことへの天罰」と挑みかかります。蜘蛛の投げる糸が手足に絡まりますが、大勢で取り囲み、ついに首を打ち落とします。

源頼光は、酒呑童子退治でも知られる平安時代の勇将です。土蜘蛛とは、もともと大和朝廷に従わない土着の民の呼び名でしたが、次第に一種の怪物として扱われるようになりました。妖怪退治という分かりやすい物語と、蜘蛛の糸を次々に繰り出す華々しい演出で、初心者も楽しめる人気曲です。